

TDB 景気動向調査(全国・概要) — 2007年3月調査 —

2007年4月5日

お問い合わせ先: 株式会社帝国データバンク 産業調査部

電話: 03-5775-3163 e-mail: keiki@mail.tdb.co.jp

http://www.tdb.co.jp/

景気動向調査専用HP http://www.tdb-di.com/

景気DIは45.5、前月比0.6ポイント増と2カ月連続改善

～ 企業業績の堅調持続や年度末・季節要因、公示地価の反転上昇で景況感が改善 ～

(調査対象2万653社、有効回答企業9,736社、回答率47.1%)

2007年3月の景気動向指数(景気DI: 0~100、50が判断の分かれ目)は前月比0.6ポイント増の45.5となり、2006年8月以来6カ月ぶりに悪化に歯止めがかかった前月に続き、2カ月連続の改善となった。

前月(2月)までの概況

- 個人消費の回復遅れや「脱談合」の加速などに伴い、企業業績が堅調に推移するなかでも2007年1月(44.8)は17カ月ぶりに45ポイント割れまで悪化
- 2月(44.9)は、2006年10~12月期GDPで順調な国内経済の拡大が示され、6カ月ぶりに悪化に歯止め。半面、利上げ実施などによる地方圏での景況感悪化などが影響し、改善幅は0.1ポイントと小幅にとどまる

3月の概況

- 年度末を迎えて企業業績の堅調持続が改めて再認識できたことにより、幅広い業界で景況感が改善。小売や飲食サービスなどでは、年度末特需のほか季節要因もあって景況感を押し上げ
- 公示地価が3大都市圏の大幅上昇と地方中核都市への波及により前年比0.4%増(全国平均、全用途)と16年ぶりに上昇し、不動産業界や地方中核都市を中心に景況感が改善。半面、地価下落が続いている地点も少なくなく、地方圏を中心とした15県では景況感の改善に至らず

景気DIは地域間、業界間、規模間の格差が拡大する傾向にあるものの、企業業績の堅調持続や、全体的に土地デフレの克服が改めて示されたことで、このところ続いていた悪化傾向に歯止めがかかったと言える。

今後の見通し

先行き見通しDIは、「3カ月後」は悪化し、「6カ月後」「1年後」は引き続き改善。先行きに対する不透明感の増幅には歯止めがかかっているものの、いずれも改善幅は小幅で楽観できる状況にはない。

プラス要因

- 大都市圏での土地デフレ克服と今後の地方中核都市への波及期待
- 長期的な世界経済の拡大や堅調な企業業績と設備投資、雇用・賃金の増加
→国内経済の長期的・安定的な成長期待が高まる

マイナス要因

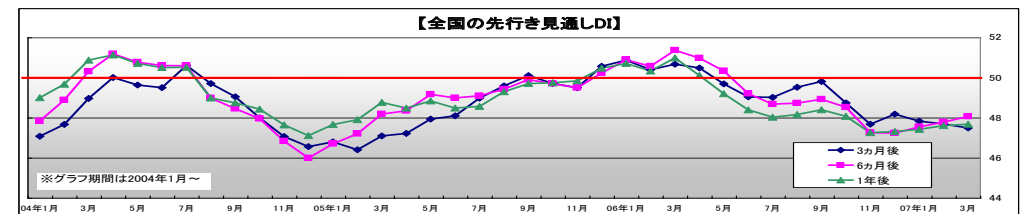
- 為替動向はやや落ち着いたとはいえ、円高リスクの払拭までには至らず
→4月2日発表の日銀短観で、輸出関連業種を中心に景況感が下振れ
- 減税の段階的廃止や年金不安などを背景に、いまだ個人消費に力強さみられず



景気DI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	前月比
全体	46.9	46.9	47.9	47.6	47.0	46.0	46.0	46.7	46.5	46.3	45.6	45.5	44.8	44.9	45.5	0.6



先行き見通しDI

(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	06年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	前月比
3カ月後	50.9	50.4	50.7	50.5	49.7	49.0	49.0	49.5	49.8	48.7	47.7	48.2	47.8	47.7	47.5	▲0.2
6カ月後	50.9	50.6	51.4	51.0	50.3	49.2	48.7	48.7	48.9	48.5	47.3	47.2	47.5	47.8	48.1	0.3
1年後	50.7	50.3	51.0	50.1	49.2	48.4	48.0	48.2	48.4	48.1	47.3	47.3	47.4	47.6	47.7	0.1

- 利上げの影響が過剰債務にあえぐ地方圏・中小企業を中心に広がるのは不可避
→業界・規模・地域間における景況感の二極化傾向は一層強まる公算大

長期的な世界経済の拡大への期待が高まっているものの、国内においては個人消費の動向や円高リスク、利上げの影響など懸念材料も少なくない。賃上げ状況次第では個人消費への点火が期待されるものの、しばらくは判断の分かれ目となる50を下回る水準での一進一退が続くと見られる。

業界別: 10 業界中『農・林・水産』、『金融』、『建設』を除く 7 業界で前月比改善

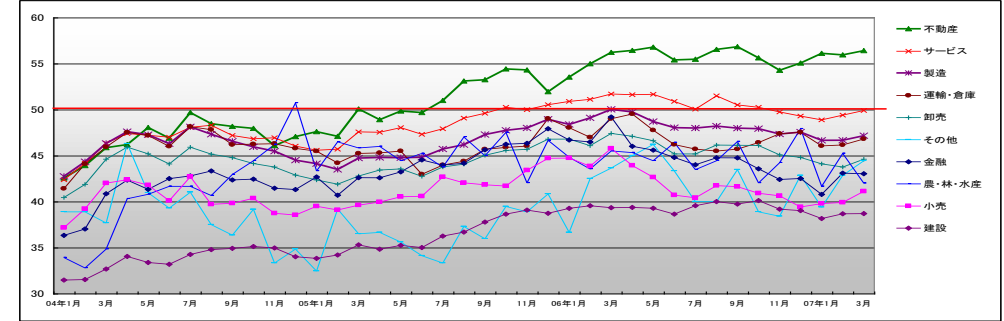
- 『不動産』（56.4）…前月は利上げ実施により 3 カ月ぶりの悪化となったものの、公示地価の発表で全体的に土地デフレからの脱却が裏付けられたことで、同 0.4 ポイント増と 2 カ月ぶりに改善、10 業界中の最高水準が続いている
- このほか、『卸売』（44.6）や『小売』（41.1）、『サービス』（49.9）など 10 業界中 7 業界で改善。特に『小売』は年度末需要に支えられ、同 1.2 ポイント増と大幅改善
- 『建設』（38.7）…年度末までの工事消化に向けた受注増が見受けられた半面、公共事業費の削減や「脱談合」の加速が引き続き景況感にマイナスとなり、前月と同水準にとどまる

業界別景気DI

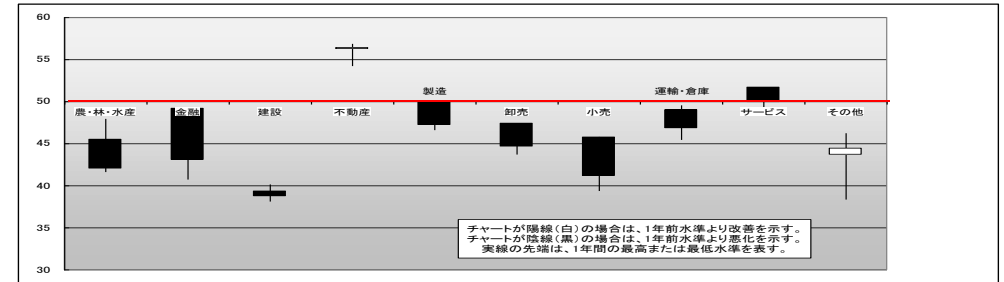
(網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	前月比	3カ月後	6カ月後	1年後	3月の標準偏差
農・林・水産	45.5	45.3	44.4	46.4	43.5	44.4	46.5	42.0	44.2	47.9	41.7	45.2	42.0	▲3.2	46.7	45.3	45.3	16.4
金融	49.2	46.0	45.6	44.8	44.0	44.8	44.8	43.6	42.4	42.5	40.8	43.1	43.0	▲0.1	44.9	45.8	45.4	16.8
建設	39.3	39.4	39.3	38.6	39.6	40.0	39.2	39.0	40.1	39.2	39.0	38.2	38.7	▲0.0	40.2	41.5	40.8	20.1
不動産	56.2	56.4	56.8	55.4	55.5	56.6	56.8	55.6	54.3	55.1	56.1	56.0	56.4	▲0.4	56.0	54.8	53.1	16.0
製造	42.6	43.2	43.1	41.6	40.9	40.9	41.1	41.3	41.2	39.7	39.2	38.4	40.0	1.6	44.8	45.0	46.8	14.9
卸売	44.6	44.3	43.0	41.3	39.3	40.5	38.9	39.2	38.2	36.9	37.5	37.8	39.9	2.1	42.8	43.8	44.8	15.2
小売	41.1	41.1	40.4	38.9	40.0	41.0	41.0	41.9	40.7	42.4	41.4	41.9	41.1	▲0.8	41.7	42.9	42.5	20.5
サービス	49.2	49.2	49.2	48.7	47.8	48.0	48.1	48.8	48.5	48.4	47.3	47.4	49.0	1.6	50.8	50.9	51.5	16.2
その他	51.3	50.8	49.0	49.8	49.8	49.8	51.6	50.7	50.7	51.3	50.1	50.2	49.8	▲0.4	50.8	51.1	49.0	19.5
全体	44.1	42.8	41.8	40.6	40.1	41.7	41.2	39.7	38.2	37.1	37.4	38.1	40.3	2.2	45.3	46.1	46.3	20.3
製造	50.0	49.8	48.7	48.0	48.0	48.2	48.0	47.9	47.3	47.6	46.7	46.7	47.2	0.5	49.0	49.3	48.8	17.2
卸売	42.1	42.8	42.2	41.5	41.2	42.9	42.9	41.1	40.6	40.1	38.8	38.0	40.2	2.2	44.6	46.1	46.9	14.3
小売	41.1	41.5	40.7	38.8	37.1	40.0	39.3	39.4	37.5	37.5	35.7	35.3	37.3	▲0.4	41.2	43.9	46.3	16.3
サービス	40.1	40.4	40.2	39.3	39.1	40.3	41.0	41.1	40.6	40.7	38.8	39.2	39.7	0.5	43.2	44.9	43.8	17.5
その他	44.5	45.4	43.2	39.9	42.7	41.5	42.4	41.1	41.4	39.6	40.6	40.2	41.7	1.3	49.8	45.1	45.6	16.5
全体	50.6	50.3	50.3	48.1	48.1	49.2	48.9	48.8	47.9	46.8	47.8	46.8	48.4	1.4	49.8	49.4	49.5	14.9
製造	60.0	62.8	62.5	62.2	57.7	59.5	61.1	62.8	70.6	68.1	73.6	67.7	75.0	7.3	66.7	64.2	61.0	15.6
卸売	48.0	46.4	46.1	45.9	46.2	48.2	47.8	49.8	49.2	48.5	48.1	47.6	46.9	▲0.7	48.0	48.6	46.7	20.3
小売	53.2	52.6	51.7	49.9	50.2	50.8	50.6	50.7	49.3	49.3	48.8	48.4	48.7	0.3	49.8	49.8	49.2	17.3
サービス	46.2	45.1	45.2	43.7	43.7	43.3	43.6	43.2	41.7	42.1	40.6	41.0	43.1	2.1	46.4	47.9	48.4	16.6
その他	47.4	47.1	46.6	45.2	45.2	46.2	46.1	46.1	45.1	44.8	44.1	43.8	44.6	0.8	47.0	47.8	47.5	17.0
製造	48.0	46.4	45.2	45.0	44.5	46.6	43.8	42.6	41.5	41.3	41.8	41.5	42.6	1.1	47.4	48.5	48.2	15.9
卸売	49.2	45.7	41.9	42.2	40.8	39.4	44.8	41.2	43.5	39.7	38.2	43.2	41.3	▲1.9	47.5	46.7	46.0	13.3
小売	46.0	45.1	44.6	44.8	46.0	48.9	45.2	48.4	45.1	48.8	43.2	44.6	47.3	2.7	51.3	50.7	48.0	16.8
サービス	47.8	48.9	40.6	42.7	41.7	39.4	41.7	36.1	41.7	35.7	38.9	40.0	45.0	5.0	50.0	46.7	55.0	10.6
その他	48.1	49.2	48.0	43.8	45.2	43.7	47.0	46.7	45.8	45.4	46.5	46.7	44.4	▲2.3	48.7	49.0	49.0	16.0
全体	48.4	42.8	42.0	37.8	39.7	40.8	36.8	37.7	38.1	34.1	33.7	35.6	37.2	1.6	41.9	43.4	43.4	15.6
製造	41.2	39.4	38.0	35.6	33.7	35.2	35.7	35.5	35.7	34.3	35.4	34.6	37.0	2.4	42.3	43.0	45.2	16.2
卸売	48.0	47.1	47.3	44.4	44.4	47.4	48.3	45.2	43.8	43.3	46.0	42.8	45.9	3.1	47.0	47.8	48.9	14.1
小売	35.7	27.8	36.1	33.3	25.0	42.6	29.2	39.6	41.7	40.0	33.3	38.9	31.0	▲7.9	33.3	33.3	33.3	18.7
サービス	45.8	43.9	42.7	40.7	40.4	41.7	41.6	40.9	40.6	39.4	39.8	39.9	41.1	1.2	45.5	46.0	46.7	15.5
その他	49.0	49.5	47.8	46.2	45.7	46.4	47.4	47.5	46.1	46.2	46.8	46.8	48.4	0.8	48.4	49.9	50.0	16.6
製造	50.0	54.0	50.0	49.4	47.5	52.1	50.0	50.0	43.7	38.4	41.1	44.8	47.8	3.0	50.5	51.6	51.1	12.3
卸売	55.9	55.9	54.8	55.6	52.4	53.3	52.4	55.6	50.0	55.6	52.4	52.2	54.2	2.0	54.2	55.2	53.1	15.0
小売	50.0	51.4	50.0	53.8	53.8	56.1	51.2	47.4	50.0	48.8	47.2	45.8	50.0	4.2	50.0	50.0	50.0	9.6
サービス	47.6	49.3	50.2	47.0	47.1	49.8	48.5	48.9	48.4	48.1	47.9	48.6	48.4	▲0.2	48.9	49.6	47.9	16.4
その他	44.4	42.9	45.2	44.3	45.0	47.2	45.9	45.9	48.8	43.8	42.8	43.5	47.2	3.7	47.2	50.5	50.0	16.4
製造	46.7	46.8	47.8	47.8	46.7	45.8	44.6	42.2	38.2	40.4	40.5	38.4	40.7	2.3	42.6	40.4	43.6	15.1
卸売	49.2	45.5	47.4	49.1	40.5	47.2	35.2	37.7	41.2	38.0	42.6	44.4	41.2	▲3.2	41.2	43.1	45.1	20.5
小売	45.2	45.4	46.1	46.1	45.1	46.5	46.6	46.1	46.5	45.3	44.0	46.1	45.2	▲0.9	48.4	49.3	50.3	17.8
サービス	52.2	49.9	49.9	49.8	48.9	49.6	48.7	46.3	46.5	44.6	44.3	44.4	45.7	1.3	49.0	50.5	51.0	13.5
その他	58.1	57.4	57.8	56.2	56.8	57.0	56.6	56.6	56.3	56.7	56.3	56.1	56.7	0.4	54.4	56.9	55.2	13.8
製造	60.2	62.5	62.4	61.3	60.3	64.8	58.0	66.7	62.7	64.6	57.6	62.5	61.8	▲0.7	60.1	59.6	58.3	17.1
卸売	49.4	49.7	48.3	48.4	47.4	48.8	47.6	47.0	47.4	47.7	48.0	47.3	48.0	▲0.7	48.6	48.9	49.1	19.6
小売	47.2	48.8	49.2	49.7	45.9	48.4	45.6	46.0	43.9	45.4	44.2	48.3	46.1	▲2.3	48.4	48.1	49.2	16.7
サービス	54.2	47.9	45.6	51.3	46.9	50.0	51.4	47.1	46.1	44.8	46.7	48.8	53.3	4.5	50.0	48.9	47.8	15.2
その他	52.0	52.8	51.7	50.7	51.9	51.7	51.6	50.8	51.4	48.7	49.5	49.1	50.5	1.4	53.0	54.4	51.9	14.6
全体	51.7	51.6	51.7	50.9	50.0	51.5	50.5	50.3	49.7	49.3	48.9	49.4	49.9	0.5	51.4	51.7	51.2	15.9
その他	43.7	45.0	46.2	43.3	40.0	40.0	43.5	38.9	38.4	42.9	39.4	42.9	44.4	1.5	48.4	46.8	46.8	16.5

業界別グラフ(2004年1月からの月別推移)



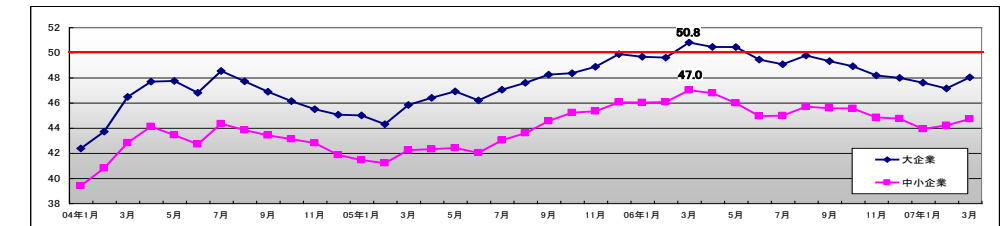
業界別グラフ(過去1年間の推移)



規模別: 7 カ月ぶりに大企業、中小企業そろって前月比改善、規模間格差は再び 3 ポイント台へ拡大

- 大企業 (48.0) は前月比 0.9 ポイント増、中小企業 (44.7) は同 0.5 ポイント増と 2006 年 8 月以来 7 カ月ぶりにそろって改善
- 規模間格差は 3.3 ポイントと、2004 年 11 月以来 27 カ月ぶりに 3 ポイントを下回った前月 (2.9 ポイント) から 0.4 ポイント拡大、地域間格差は再び 3 ポイント台へ

規模別グラフ(2004年1月からの月別推移)



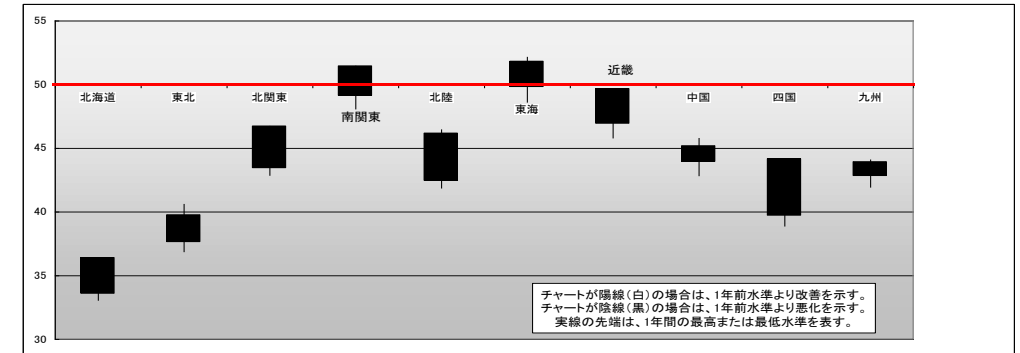
規模別景気DI

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	前月比	3カ月後	6カ月後	1年後
大企業	50.8	50.4	50.4	49.4	49.1	49.8	49.3	48.9	48.2	48.0	47.6	47.1	48.0	0.9	49.6	49.8	49.5
中小企業	47.0	46.8	46.0	44.9	45.0	45.7	45.6	45.5	44.8	44.7	43.9	44.2	44.7	0.5	46.8	47.5	47.1

地域別:20カ月ぶりに10地域すべてで前月比改善、 地域間格差は11カ月ぶりに16ポイント台に拡大

- 10地域すべて前月比改善、全地域改善は2005年7月以来20カ月(1年8カ月)ぶり。特に『東海』、『中国』の2地域では1ポイント以上の大幅改善
- 『東海』(49.8)は前月比1.2ポイント増と10地域中で最大の改善幅。名古屋圏の公示地価反転により「愛知」(52.1)が同1.1ポイント上昇するなど、土地デフレ脱却などで景況感が大きく改善
また、『東北』(37.6)や『中国』(43.9)、『九州』(42.8)も地価上昇が地方中核都市にも波及したことで、景況感が押し上げられた
- 一方、地価下落が続いている地域も少なくなく、都道府県別にみると「岩手」(32.2)や「奈良」(39.5)、「鳥取」(34.6)、「島根」(32.5)など15県では景況感の改善に至らず
→ 最高水準の『東海』と最低水準の『北海道』の景況感格差は16.3ポイントと前月(15.5ポイント)より0.8ポイント拡大、2006年4月(16.5ポイント)以来11カ月ぶりに16ポイント台に達する

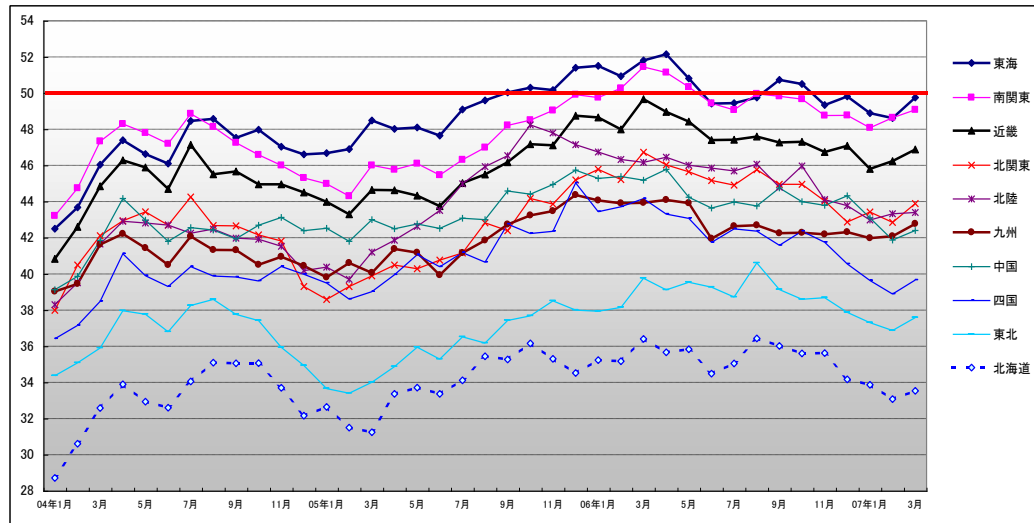
地域別グラフ(過去1年間の推移)



地域別景況DI (網掛けなしは前月比改善、イエローの網掛けは前月比横ばい、ブルーの網掛けは前月比悪化を示す)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	07年1月	2月	3月	前月比	3カ月後	6カ月後	1年後
北海道	36.4	35.7	35.8	34.5	35.0	36.4	36.0	35.6	35.6	34.2	33.9	33.1	33.5	0.4	40.6	42.5	40.9
東北	39.8	39.1	39.5	39.3	38.7	40.6	39.1	38.6	38.7	37.9	37.3	36.9	37.6	0.7	41.1	42.5	43.0
北関東	46.7	46.0	45.7	45.2	44.9	45.8	45.0	45.0	44.0	42.9	43.0	43.3	43.4	0.1	46.4	47.3	47.2
南関東	51.4	51.1	50.3	49.4	49.1	50.0	49.8	49.7	48.8	48.8	48.1	48.6	49.1	0.5	50.4	50.8	50.2
北陸	46.2	46.5	46.0	45.9	45.7	46.1	44.8	46.0	44.1	43.8	43.1	41.9	42.4	0.5	43.5	44.5	43.8
東海	51.8	52.2	50.8	49.4	49.5	49.8	50.7	50.5	49.3	49.8	48.9	48.6	49.8	1.2	50.3	49.6	48.4
近畿	49.7	49.0	48.4	47.4	47.4	47.6	47.3	47.3	46.7	47.1	45.8	46.2	46.9	0.7	48.5	49.3	49.1
中国	45.2	45.8	44.2	43.6	44.0	43.8	44.8	44.0	43.8	44.3	43.4	42.8	43.9	1.1	45.5	45.9	45.7
四国	44.2	43.3	43.1	41.7	42.5	42.4	41.6	42.4	41.7	40.5	39.6	38.9	39.7	0.8	42.9	44.0	45.8
九州	43.9	44.1	43.9	41.9	42.6	42.7	42.2	42.3	42.2	42.3	42.0	42.1	42.8	0.7	45.2	46.0	46.3

地域別グラフ(2004年1月からの月別推移)



都道府県別景況DI

ブロック・都道府県	2007年3月	前月比	ブロック・都道府県	2007年3月	前月比		
全国	45.5	0.6	滋賀	47.7	1.0		
北海道	33.5	0.4	京都	45.8	1.0		
東北	青森	31.3	0.7	大阪	47.9	0.7	
	岩手	32.2	▲1.1	兵庫	45.5	0.7	
	宮城	43.3	1.2	奈良	39.5	▲3.0	
	秋田	33.6	1.6	和歌山	42.4	0.5	
	山形	36.1	▲0.5	鳥取	34.6	▲1.0	
	福島	40.6	1.1	島根	32.5	▲1.3	
	茨城	46.1	▲0.8	岡山	45.2	1.9	
北関東	栃木	45.0	0.8	広島	46.5	0.9	
	群馬	44.8	1.3	山口	43.6	2.2	
	山梨	35.3	▲1.0	四国	徳島	43.7	4.6
	長野	42.4	▲0.2		香川	39.6	1.1
南関東	埼玉	45.9	0.5		愛媛	42.2	▲0.4
	千葉	47.9	1.1	高知	30.4	▲0.9	
	東京	49.6	0.6	九州	福岡	45.6	1.3
	神奈川	49.0	▲0.7		佐賀	45.6	2.1
北陸	新潟	41.9	1.1		長崎	35.3	▲0.9
	富山	45.4	1.0		熊本	40.4	▲2.3
	石川	46.4	0.3		大分	40.7	0.8
東海	福井	36.0	▲1.9		宮崎	43.0	6.4
	岐阜	44.4	2.5	鹿児島	36.9	0.4	
	静岡	46.1	0.9	沖縄	48.2	▲0.9	
	愛知	52.1	1.1				
三重	50.3	0.4					

業界別の景況感「現在」(2007年3月調査分)

業界名	景気DI			判断理由 (○=良いと判断した理由、×=悪いと判断した理由)
	1月	2月	3月	
農・林・水産	41.7	45.2	42.0	○ 国産木材の市場は、昨年末からの価格上昇により入荷量、販売量ともに増加している(製材) × 北海道の水産業界は、近年の連続したしけ被害により、漁業が甚大なる被害を受け、加工業界も原料の確保が非常に厳しくなっている状況が2004年から続いており、地域・業界の景気は極端に悪化している(漁業)
金融	40.8	43.1	43.0	○ 雇用改善、企業の設備投資が活発になってきている(地方銀行) × 過払い金返還請求は増加しており、期間損益に与える影響は甚大。また、資金調達環境も最悪で、収入や営業貸付金の戻りで資金繰りしなければならぬ状況(消費者・事業者金融) × 例年になく、ゴルフ会員権の引き合いが少ない(ゴルフ会員権)
建設	38.2	38.7	38.7	○ 羽田プロジェクトの開始、石油化学設備のメンテナンス、発電所関係等の引き合いが一斉に集中してきている(管工事) ○ 茨城県内、特につくばEX沿線の開発は好調に進んでおり、大型SC、マンション、オフィスビル等の建設が引き続き行われている(石工事) × 地方では公示地価の下落が止まらないため投資も低迷(電気工事) × 年度末を控え、例年ならば活況時期を迎えるが、本年はその活力が弱い(解体工事) × 住宅着工戸数の鈍化。首都圏からのパワービルダーの台頭による、地元ビルダー・工務店の受注不振(屋根工事)
不動産	56.1	56.0	56.4	○ 不動産マーケットは首都圏を中心に好調(建物売買) ○ 不動産売却物件は都心部は少なく高値で取り合い(不動産仲介) × 土地の売り物件が少なく、仕入れや仲介等の仕事が減少、あっても物件が小型化している。まとまった土地等は大手業者に流れてしまい苦戦。賃貸も大手に客を取られている(建物売買) × 資材(木材、建材)の高騰により利幅がとりにくい(貸事務所)
製造	46.7	46.7	47.2	○ ステンレス不足から価格が高騰しているため、不安を感じて早めに製品を購入したり在庫を持つようになってきている(金属製品製造) ○ 自動車関連業界の設備投資(特に海外工場)が活発(機械製造) × 金利上昇の影響もあり、今まで何とか持ち堪えていた零細企業の資金繰りがきつくなり、倒産が目立ってきた(織物製造) × 原料の高騰と製品価格の下落(洋紙製造) × 液晶の価格下落、生産過剰による在庫調整(化学品製造) × 相見積りによる勝手な帳合変更(間屋の値引きの増加)やリベート、センターフィーの増加に原料の値上がり、さらに小売店の大型化による販売窓口の減少などに対応しきれない(菓子製造)

業界名	景気DI			判断理由 (○=良いと判断した理由、×=悪いと判断した理由)
	1月	2月	3月	
卸売	44.1	43.8	44.6	○ 市町村合併による平準化推進のため、情報通信(インフラ整備、FTTH型CATV、防災行政無線)工事の発注が多い(電気機械器具卸) ○ 設備投資が増加してきている(機械器具卸) × 消費が弱い。店頭からの発注が上がってこない(各種商品卸) × 広島地区の地場アパレル産業は斜陽化に天候不順が加わり、極端に悪くなっている(包装資材卸) × クレジット会社の体質改善、老人多重債務の問題で、急激なショッピングローンの無謀な変革にて先行き見通しが悪い(宝飾品卸)
小売	39.8	39.9	41.1	○ 飲食についても底打ちした感じ。いいものを出せば反響のある状態。安いだけのデフレ基調から一歩前進した感がある(飲食料点小売) × 軽自動車以外の新車販売低迷に伴い、良質中古車不足と長期保有化問題(中古車販売) × 仕入価格の下落以上に小売価格が下落。再び仕入価格の値上げの通知を受けており、小売価格へ転嫁ができるか微妙(ガソリンスタンド)
運輸・倉庫	46.1	46.2	46.8	○ 貨物量も増加傾向にあり、備車先がつかまり難い状況が続いている。また、燃料価格についても一時期より安定している(貨物自動車運送) ○ 空庫スペースの情報は少なく、各業種とも3月決算の影響もあり、それなりの動きをしている(普通倉庫) × 原油高の影響が大きい。また、人手不足による求人費用の増加、人件費の増加(貨物自動車運送) × 運賃水準が依然として低い(貨物運送)
サービス	48.9	49.4	49.9	○ 客先からソフト開発要請があっても技術者不足で対応できないほど好調(受託開発ソフトウェア) ○ 人材派遣に対するニーズが拡大しているが、スタッフの獲得が厳しくなりつつある(労働者派遣) × 地上波デジタル放送前の買い控え(加入控え)のため(ケーブルテレビ) × 人気のスロット遊技機の検定切れによる台の入れ替えのための資金調達がかさむ(パチンコホール) × マーケット(通話分数)の頭打ち、および技術革新(IP電話)による価格破壊(通信)

※「判断理由」については自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

業界別の景況感「先行き」(2007年3月調査分)

業界名	先行き見通しDI			判断理由 (○=良いと判断した理由、×=悪いと判断した理由)
	1月	2月	3月	
農・林・水産				△ 2006年末から上昇した木材価格は当面は現状のまま推移すると思うが、先行きは不透明(製材) × 漁獲量の減少は、この先3年くらい続くものと予測している(漁業)
	3カ月後	44.0	45.2	46.7
	6カ月後	47.0	44.0	45.3
	1年後	48.2	47.6	45.3
金融				△ 団塊の世代の需要が始まってはいるが、まだまだといった感じ(ゴルフ会員権) × 日銀の金利引き上げや今後の貸金業の金利引き下げ等を考慮すると、これまでのように簡単な調査や審査では融資が出来なくなる。今以上に融資残高減、収益性悪化により継続が難しくなる(事業者金融)
	3カ月後	44.0	46.1	44.9
	6カ月後	45.0	46.4	45.8
	1年後	45.0	46.1	45.4
建設				○ 関東圏の建設業界は民間発注のマンション、オフィスビル、SCなどの計画が順調で、ここ1年は十分なパイが確保できるものと思われる(石工事) × 適正価格と不良工事排除に向けた社会的認知が必要(土木工事) × 受注減少が続いているため、さらなる社内リストラが必要(塗装工事) × 建設業界における需給バランスが崩れているため、必要以上に技術を度外視した価格面だけの受注競争が横行している(管工事) × 次年度に向かっての仕事の情報が少ない(鉄骨工事)
	3カ月後	40.3	40.6	40.2
	6カ月後	40.0	41.2	41.5
	1年後	40.8	41.3	40.8
不動産				△ 仕入れ価格高騰・建築費の値上がりなどの理由から、4月以降の販売物件の価格を上げるようだが、エンドユーザーがどう反応するか不透明(不動産売買) △ 首都圏の不動産価格は夏場を境に調整局面に入るとみられ、年末を境に取りも消極的になると思われる(不動産管理) × 顧客がブランド志向のため、大手に物件と顧客を奪われる(建物売買) × 受注金額は低下、材料は高騰し、収益の確保が非常に厳しい(貸家業)
	3カ月後	57.7	55.7	56.0
	6カ月後	55.6	53.9	54.8
	1年後	53.5	52.5	53.1
製造				○ アジアを中心とした世界的需要は中期的に継続すると考える(鋼管製造) ○ デジカメの伸びが鈍化傾向だが、新機種需要で受注拡大見込み(アルミ製品製造) ○ 春物衣料の荷動きが昨年より少し良いようだ。冬物の在庫量を横目ににらんだ春物の動きは平年並みに戻った(プラスチック製造) × 全体的に、需要が減少(特に、レジ袋分野では顕著と思われる)しており、また廉価な海外流入品の増加も止まらない(プラスチックフィルム製造)
	3カ月後	49.8	49.5	49.0
	6カ月後	49.4	49.5	49.3
	1年後	48.9	49.0	48.8

業界名	先行き見通しDI			判断理由 (○=良いと判断した理由、×=悪いと判断した理由)
	1月	2月	3月	
卸売				○ 消費税、住宅取得減税等の問題で今年、来年と駆け込み需要が出ると予想される(木材卸) × 中国からの安値攻勢は収まらない。日本の業界も赤字受注が続いている(建築石材卸) × 欠陥住宅の補修費用の供託費用、保険加入が義務付けられた際、費用負担ができない会社が多数あると懸念する(建材卸) × 設備過剰となってきており、在庫が増え始めている(和洋紙卸)
	3カ月後	47.6	47.2	47.0
	6カ月後	47.4	47.4	47.8
	1年後	47.1	47.3	47.5
小売				○ 地価・物価上昇、賃金上昇などが見込まれる(食料品小売) × 可処分所得の減少などによる購買意欲、消費意欲の低迷が懸念される(スーパー) × 元売直営の(セルフ)販売がますますシェアを高め、地場販売店の生き残りは難しくなる(ガソリンスタンド) × 地方における個人消費は緩やかにしか回復しないが、回復する気配もない(百貨店)
	3カ月後	44.8	44.2	45.5
	6カ月後	45.3	44.8	46.0
	1年後	45.7	46.2	46.7
運輸・倉庫				○ 運送業界への規制強化で安全等へのコンプライアンスコストへの理解が浸透しつつある(貨物自動車運送) ○ 料金改定が予想され、賃金の上昇により労働力の確保が期待される(タクシー) × 労働市況が悪化して賃金を上げざるを得ず、その分が利益を圧迫すると思われる。先一年程度ではそれが運賃などに充分転嫁できるとは思えない(貨物自動車運送)
	3カ月後	49.4	49.3	48.4
	6カ月後	49.2	49.9	49.9
	1年後	49.5	49.5	50.0
サービス				○ インフラを含め基幹システムの再構築が続く(受託開発ソフトウェア) ○ 過去積み残しのシステム開発を大手銀行、保険業界が手直しにかかっている(受託開発ソフトウェア) △ 統一地方選、参議院選挙に期待する(広告代理) △ ますます競争激化が予想され、勝ち組・負け組の差が拡大することが予測される(労働者派遣) × フィットネス業界に限らず、供給過多の状態に見える(スポーツクラブ) × 金額的にはデフレ状態がまだ継続しており、人材の確保が難しいためコストアップの状態にある(ビルメンテナンス)
	3カ月後	50.9	51.1	51.4
	6カ月後	50.5	51.0	51.7
	1年後	50.5	50.7	51.2

※「判断理由」については自由回答のため、業界によっては理由がない場合もあります。

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万653社、有効回答企業9,736社、回答率47.1%)

(1) 地域

北海道	514	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	968
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	612	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,556
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	575	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	635
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,362	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	295
北陸(新潟 富山 石川 福井)	465	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	754
		合計	9,736

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	25	小売	飲食料点小売業	65	
金融	122		繊維・繊維製品・服飾品小売業	46	
建設	1,259		医薬品・日用雑貨品小売業	25	
不動産	234		家具類小売業	10	
製造	飲食料品・飼料製造業	356	家電・情報機器小売業	51	
	繊維・繊維製品・服飾品製造業	117	自動車・同部品小売業	43	
	建材・家具・窯業・土石製品製造業	245	専門商品小売業	126	
	パルプ・紙・紙加工品製造業	97	各種商品小売業	61	
	出版・印刷	205	その他の小売業	7	
	化学品製造業	374	運輸・倉庫	334	
	鉄鋼・非鉄・鋳業	422	飲食店	31	
	機械製造業	424	郵便業、電気通信業	16	
	電気機械製造業	351	電気・ガス・水道・熱供給業	12	
	輸送用機械・器具製造業	80	リース・賃貸業	150	
(2,837)	精密機械・医療機械・器具製造業	77	旅館・ホテル	36	
	その他製造業	89	娯楽サービス	52	
	卸売	飲食料品卸売業	376	放送業	17
		繊維・繊維製品・服飾品卸売業	200	メンテナンス・警備・検査業	114
		建材・家具・窯業・土石製品卸売業	408	広告関連業	139
		紙類・文具・書籍卸売業	113	情報サービス業	329
		化学品卸売業	306	人材派遣・紹介業	38
		再生資源卸売業	16	専門サービス業	184
		鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売業	368	医療・福祉・保健衛生業	64
		機械・器具卸売業	972	教育サービス業	15
その他の卸売業		408	その他サービス業	106	
その他			合計	9,736	

(3) 規模

大企業	2,272	23.3%
中小企業	7,464	76.7%
合計	9,736	100.0%
(うち上場企業)	(390)	(4.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在、3カ月後・6カ月後・1年後)
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足感、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について
- ・三角合併の解禁に対する企業の意識調査

3. 調査時期・方式

2007年3月22日～31日(インターネットリサーチ方式)

DI(景気動向指数)について

■調査目的・調査項目

TDB景気動向調査は、「国内景気の実態把握」を主目的として、各業界の現況・先行きに関する判断や各企業の業績・環境など、企業活動全般に関する調査項目について全国2万社以上を対象に月次で実施する統計調査(ビジネス・サーベイ)で、2002年5月から実施している。

■調査先企業の選定

調査先企業は全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、調査先企業による7段階の判断に、それぞれ下表カッコ内の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。

非常に悪い (0)	悪い (1/6)	やや悪い (2/6)	どちらともいえない (3/6)	やや良い (4/6)	良い (5/6)	非常に良い (6/6)
0	16.7	33.3	DI=50 判断の分かれ目	66.7	83.3	100

50を境にそれより上であれば「良い」超過、下であれば「悪い」超過を意味し、50が判断の分かれ目となる。なお、小数点第2位を四捨五入している。また、DIの算出においては、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、1社1票の単純平均の形をとっている。

■企業規模区分

大・中小企業の分類については、中小企業基本法に基づいて業種別に以下のとおり設定している。

業界名	大企業	中小企業
製造業・その他の業種*	資本金:3億円を超える かつ 従業員数:300人を超える	資本金:3億円以下 または 従業員:300人以下
卸売業	資本金:1億円を超える かつ 従業員数:100人を超える	資本金:1億円以下 または 従業員数:100人以下
小売業	資本金:5千万円を超える かつ 従業員:50人を超える	資本金:5千万円以下 または 従業員:50人以下
サービス業**	資本金:5千万円を超える かつ 従業員:100人を超える	資本金:5千万円以下 または 従業員:100人以下

* その他の業種には、鉱業、建設業、電気・ガス・熱供給・水道業、運輸・通信業、金融・保険業、不動産業が含まれます。
** サービス業には、クリーニング業、物品賃貸業など、日本標準産業分類の大分類上サービス業に分類される業種が該当します。

©TEIKOKU DATABANK,LTD.2007

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。